

# 令和4年度 第1回 太田市美術館・図書館運営委員会 摘録

◆日時 令和4年9月28日（水）午後1時30分～午後3時20分

◆会場 太田市美術館・図書館 3階視聴覚ホール

## ◆出席者

【委員】 尾崎委員長、川上委員、染谷委員、鳥塚委員、花井委員、森委員

【事務局】 高橋館長、小林館長補佐（管理係長）、瀬古係長（学芸係長）、  
岡村係長代理、星野係長代理、矢ヶ崎主任学芸員

◆議題 ①運営委員会の基本的な考え方について  
②令和3年度事業報告について  
③令和4年度事業概要について  
④その他

◆配布資料

- ・ 会議次第
- ・ 委員名簿
- ・ （資料1）運営委員会の基本的な考え方について
- ・ （資料2）令和3年度事業報告について
- ・ （別冊1）本と美術の展覧会 vol.4  
「めくる、ひろがるー武井武雄と常田泰由の本と絵とー」事業報告
- ・ （資料3）令和4年度事業概要について
- ・ （資料3-1）津田直+原摩利彦 トライノアシオトー海の波は石となり、丘に眠る
- ・ （資料3-2）2022 イタリア・ポローニャ国際絵本原画展企画概要（案）
- ・ （資料3-3）令和4年度図書イベント報告書

## ◆会議の内容

### 1. 開会

### 2. 任命書の交付

### 3. 挨拶

### 4. 運営委員会

#### (1) 自己紹介

#### (2) 運営委員会委員長選出

#### (3) 議題

### 議題① 運営委員会の基本的な考え方について

事務局が資料1に基づき説明を行った。

（委員）

会議録要旨を公開するにあたり、委員が校正する機会はあるのか。

(事務局)

会議録は事務局にて作成し、委員に校正をお願いする。校正終了後、再度委員に確認いただき正式に公開させていただく。ただし、情報公開上、美術展など情報解禁できないものは削除して非公開とする。

(委員)

運営委員会の開催は年2回ということだが、今回は6月の会議が9月にずれ込んで、もう1回は、年度末の2月開催予定になるのか。

(事務局)

2月を予定しているが、こちらの都合で前後することもある。

## 議題② 令和3年度事業報告について

事務局が資料2および別冊1に基づき説明を行った。

(委員)

新型コロナの影響について、美術展は予定どおり実施できたか。また、映画、寄席などはどうだったか。

(事務局)

美術展については、短縮、延期、中止等はなかったが、月末名画座とえきまえ寄席は中止することがあった。事業報告書P6に感染症拡大のため中止と記載している。

(委員)

図書カードの登録者数の報告があったが、図書カードは登録するとずっと使えるのか。そうだとすると登録者はどんどん増えていくと思うが。

(事務局)

図書カードは5年の有効期限をもうけている。5年過ぎた利用者に対しては申請書を出していただき、更新することで有効期限を5年延ばすという方法をとっている。

(委員)

令和3年度の年間利用者数は、137,000人ですけども、コロナ前は何人くらいだったのか。

(事務局)

令和2年度が72,259人、令和元年度262,273人、平成30年度298,911人、平成29年度303,468人、令和4年度現在までが64,231人。

(委員)

図書について、「技術工学」の貸出が多いが、何か工夫して選書しているのか。貸出数は芸術スポーツとほぼ同じくらいであるが、蔵書数は、芸術スポーツにくらべると少ない。

(委員)

同規模の他の図書館にない本がかなり多い。これは技術工学だけでなく、建築、美術、映像なども同様になるが、太田のほかの図書館にない本を開館当初に選書委員会で選書を行った。文学の9類も基本的には選書していない。キャパシティの問題もあるので、片寄りがあるが、特別に色を出した図書館というところではいい結果は出ていると思う。他の図書館にない本があると近隣で気づかれてここに来るのではないか。

## 議題③ 令和4年度事業概要について

事務局が資料 3、3-1、3-2、3-3 に基づき説明を行った。

(委員)

P1に創造的太田人(そうぞうてきおおたびと)という理念がある。ほかの図書館や美術館ではやらないような融合した企画やアンデルセン賞の本など他所では絶対ないような選書がここにはある。それに関連するイベントや企画など年間で計画されているものは実施しているが、日常的な企画があまりなされていない。面だしをされた本棚はあるが、書架の中に企画コーナーが一つもない。書架の中に日常的な企画を展開していかないといけない。この図書館には、いい資料があるのだということに気づいてほしい。館内の企画コーナーが絵本コーナーの1箇所しかない。あれだけではちょっと弱いのかなと思う。もし、棚に作れないのであれば、広めの通路に、小さいテーブルを出すだけでもやれるのではないか。他の図書館のリサーチをしたほうがいいのではないか。司書と学芸員がいるので、アート部門の図書に関しては企画コーナーを作ってもらいたいのではないか。

あとは、創造的太田人という理念を考えて、もう少し建築とかアートとか、出版、装丁、まちづくりでもいいが、もう少しジャンルを広げて、この図書館ならではの関連する人を呼んで、今まで来ていなかった人の新しい目線を出せるような図書館だと思う。

開館から5年経過したということで、創造的太田人というものをもう一度スタッフ全員で考えるときに来ているのではないかと思う。

最近、図書館や美術館の複合施設の経営がすごく複雑になってきていることから、クリエイティブディレクターやプロデューサーをつけたりする公共施設も出てきている。館を俯瞰しながら経営陣と一緒にミーティングをして館のクオリティをあげていく。そういう人たちも最近では公共施設で採用されているという事例がある。

(事務局)

現在、集客を増やすということを課題としている。コロナで来場者数が落ち、今もコロナ以前の数字には回復していない。コロナが落ち着いたと言っているかわからないが、集客数というところも重点を置いて取り組んでいかなければならない。広報活動等もできる限りのことはしていきたいと考えているので、先ほどいただいた話は大変参考になった。我々の考えが及んでいなかった部分なので、貴重な意見だと受け止めている。今後のテーマとさせていただきます検討していきたい。

(委員)

非正規の図書館スタッフの方の研修はどうしているか。

(事務局)

正規職員が教えているが、外部の講師を呼んでというところまではしていない。

(委員)

最近、コロナでオンライン研修も結構あり、昔より受けやすくなっている。文科省や群馬県図書館協会などいろんな関係のところを見ていただいて研修の場を作っていくのと学芸員、司書だけに頼っていたら伸びていかない。みんなが横、縦のつながりをしていかないと難しいと思うので、特に現場にいる非正規の方に教育をしていただきたい。

(事務局)

ここ2、3年、実際スタッフの研修は行われていないが、職員は、WEB研修で初心者向け講習を受講することができた。そういったものを見つけてスタッフに小さなものから小まめにやっていきたい。

(委員)

須賀川市にある大きな図書館は、分類法を使わず全部テーマ配架をしている。職員の方々は少し抵抗があったり、今まで図書館を使っていた人はちょっと使い辛いかもしれないが、外部のディレクターと司書が、あたらしくテーマを考えて配架することで、新しい利用者にとっては使いやすくなっている。絵本にしても、この図書館は作家別になっているが、作家別で果たしていいのだろうか。そういう疑問は考えてなくてはならない。急に変えろとは言わないが、開館して5年が経つので、議論してもいいのではないか。

(委員)

JBBYの私設の図書館とか図書コーナーを作るときも、テーマ別とか子ども目線で本を探しやすいように作りたいのだが、長く司書をしている方は管理の面からすると本当に大変だと思う。現場の方の苦労もわかるので、大変だとは思いますが、特に子どものところから、テーマ別をスタートすると思う。

研修については、いろんな図書館を見学に行くというところから始めてほしい。板橋区立中央図書館も絵本に特化してかなり頑張っている。毎週末やっている小さい子どもの本に関するレクチャーや本の並べ方など、参考になると思うので見学してもらいたいと思う。

(委員)

前日も言ったが、太田市の子どものこの図書館を誇りに思っている。それは授業ですごく感じたことで、この図書館に行きたいと思っているが、1歩を踏み出せないところがある。昨年度、学校で見学に来ているところが4校。太田市内には小中で40校以上あり、うち小学校が26校ある。

12月に開催されるポローニャ国際絵本原画展をもっとPRして、バスを使って来てもらえたらいいと感じた。

(委員)

ポローニャ児童原画展について、コロナが収まりつつあって、学校のスクールバスを使って、団体で来られる機会があればいいと思うが、巡回展で他の館との関係で会期が年末年始を挟んでしまい勿体ない。スケジュールを変えることができるのであれば、人が動きやすいと思う。

それから、先生の一言は影響力がある。チラシを配るときに、「先生も行って来たけどすごくよかった」と一言あるだけで全然違うと思う。例えば、美術研修会、中学校の美術主任会、高校の美術の先生でもいいと思うが、ここを研修場所として利用してもらって、先生方にこの良さをわかってもらいたいのではないか。

(事務局)

今年の夏休みに中学校の先生からの依頼があり、当館で市内中学校美術担当の先生の研修会が開催され、合わせて館内の見学もされていった。この交流がきっかけとなりトライノアシオト展のイベント案内を各学校の美術担当の先生にメールで送ることができた。今後もこうした交流を活用して、次のポローニャ展でも先生に興味を持っていただき、子どもに話をしてもらえるような工夫を考えてやっていきたい。

(委員)

興味を持っていただいている美術の先生がいるのであれば、例えば、学芸員と一緒に学校の先生方がセレクトする何冊というのをここにある本だけで特集をやってもらうとか。また、司書教諭が選ぶ絵本とか、読み物とか。まちと関わるという意味でも、そういうのを表に出していく棚を作ってもいいのでは。

それから3階レファレンスに針生文庫があるが、何の説明もない。何でこの文庫がここにあるのというのはあったほうがいいのではないか。

(委員)

私どもの団体も、この本を如何にして子どもに読んでもらうかという観点で選書をしていることが多い。この数年、少年院とか少年鑑別所で本当に小さいころから本にまったく触れずに育ってきた子たちにも本を届けるためにはどうしたらいいのかという観念で選書を開始した。それは大人が見て、ぜひこの本を読んでほしいという観点ではなくて、本という物を見て、今まで見て全然興味がなかったが、チラ見したくなるような面出しの本という価値観から選んだ選書というのがある。それは、今まで私たちが選んだことがないようなひたすら井ぶりものの料理の写真が載っている本だとか。そういう観点で、とにかく本は見てなんぼで、いくら頭で、文字で、デジタルより紙の本がおもしろいのだよと口で伝えてもそれは全然伝わらなくて、見て触ってはじめて面白いと感じてもらって、やっと一歩進む。という意味では美術館とか図書館は見せることが仕事というかそれができる場所なので、とにかく見せるところに重きを置いて、計画をしていただけたらいいと思う。

(委員)

まちじゅう図書館を全館訪問して、現状を調べたとのことだが、その報告はWEBなどに出しているか。個人でこんな企画をしているとか、こんな本を入れたとか調べたものがあるのだったらインフォメーションをしていったほうがいい。参加されている方々の資料もいいものがある。行政の方で大変だったら参加館が交代で事務局をやるとか、地域づくりの一つとして皆さんでやっていくとかしないとはんでいくと感じている。

それから、電子図書の導入は検討しているか。太田には他に図書館があるので、ここだけというわけにはいかないと思うが、コロナになってから電子図書のサービスを入れなければいけないのではないという風潮がある。ただ、気をつけなければいけないことがある。普通の本は定価があるが、電子の本は上限がないため、つり上げて売っている会社とそのままの定価で売っている会社がある。あとは既存の検索(OPAC)と電子図書をバラバラに検索しなくてはいけないシステムになっている会社もある。電子図書を入れるときにかなり吟味していろいろリサーチしてから入れないとランニングコストが高くなり大変になる事例がある。電子図書は入れたほうがいいと思う。ここがじゃなくて、太田市として。

(委員)

電子図書は購入しても、有効期間がある。5年とか3年とか。買っても3年、5年経つともう一度契約し直さなければいけない、買い直さなければいけない。

(事務局)

現在の電子図書を進める動きはないが、電子図書を導入する図書館が増えている認識はあるので、研究していきたいと思う。

まちじゅう図書館については、アンケートはとっているが公開は予定していない。1館1館担当が歩いて伺っているが、ほんとうにきれいに思い思いの本を並べているところ、大学ノートで貸出簿を作って実際貸出をしているところもあったが、コロナで手に取る人が少ないとか、もどかしい思いをしているという意見があった。皆さん本当に熱心にやっているが、知られていないというお話もあったので、どのように広報していくか、皆さんにお知らせするか、つなぐところに力を入れていければと思う。

(委員)

すべての雑誌を見ているわけではないが、美術関係の雑誌の巻末に掲載されている各県の美術館の催しに、太田市美術館・図書館という項目がない。開館当時はまだ知名度がなかったが、5年経ってコンスタントに美術展を開催して、編集部の方に情報は毎回出していると思うが、建築学会賞を取ったというのもあるし、ぜひコンタクト取って、雑誌に載せてもらえるといいと思う。

(事務局)

どうすれば載せてもらえるのか調べてみたい。

(委員)

こういう会議に出ると大抵あれやったら、これやったらという意見は出るが、現場はスタッフもいないし、お金もない、やりたくても結局手が出ないまま、変わらないということが多い。学校司書、学校主任教諭、あるいはまちじゅう図書館やさっきボランティアもいるという話が出ていたが、外部でやる気のある方がいると思うので、そういう方を積極的に取り入れる努力をしたほうがいい。美術館の中には、そういうのを嫌がる場所も多いが、ここはそもそも創造的太田人でまちじゅう創造的な人を取り込もうというコンセプトで、建物をそういう作りになっている。例えば、テーマ的な特集、図書の展示なんかは、誰か好きな人にちょっと頼めば、すぐ喜んでやってくれそうな気がする。やれる人はたくさんいると思う。仕組みを作るだけだし、そこに抵抗を持たないことだと思う。

美術部門の展示に関しては、毎回ある程度の型が出来ていて、シリーズ企画が定着している。そもそも他の美術館と違って、そんなに広い展示室を持っていないというのが、ある種の致命傷ではあるが、逆にちょっとした展示がすごくやり易いという利点にもなっている。予算と人の問題もあるが、できればもうちょっと回数が増えないかなと思う。

(委員)

展示のこともう一つ言うと、ここの展示室は狭いからその規模の企画だけで終わってしまっている

現状があると思う。そうすると本当にやりたいものが、やれてないのではないかという気もする。先ほど展示室がせまいのが欠点だといったが、駅前ギャラリーがすぐそばにある。太田はいろんな施設をちょこちょこ作っているの、それを使う方法を考えたほうがいいと思う。

(委員)

読書感想文ワークショップは、2人体制になったので、親子ごとに時間を取ってあげられるようになった。親子で一緒に本を読んで、一緒に読書感想文を書くというのがすごくいい時間だと思う。子どもは結構苦しいが、親が一生懸命隣でなだめながら、頑張っている。

それから、いろんな図書館のイベントもあって楽しいし、興味を持って繰り返し来てくださっている方が多くなっていると思うが、絵本作家を呼ぶイベントがちょっと少ないような気がするの、絵本作家を呼んで講演会などをやってみるといいと思う。

ちょっとネットで調べると「もったいないばあさんシリーズ」の真珠まりこさんは、結構いろんなところに行って講演をやっていて、子育てと関連させてお話しをされていて、どんなお話しをされているのか興味もあるし、翻訳家の菱木晃子さんは、「ニルスのふしぎな旅」など北欧の作品を翻訳している方だが、北欧に取材にいった話などを聞いて、実際の本を読むとすごく楽しいと思う。絵本作家のお話に興味がある人もいいし、外国の絵に興味がある方も聞きに来てくれると思う。

(事務局)

トークイベントについては、今年度は、本でつながるイベントの10の中で、一つの案にはあがっていた。今年度実施しなかったが、今後検討する中に入っているの、その際にはご紹介いただければと思う。

また、バリアフリー児童図書展が11月にあるが、この中で今回新たなものを企画している。太田の芸術学校の講師をしていた方をご紹介いただき、アンサンブルの演奏とボディーパーカッションで、「音楽 de バリアフリー」というかたちで予定している。ご指摘いただいたように図書館なので絵本作家さんの講演会が望まれているというのは承知しているが、なかなか始まりのきっかけが持てない状態で、今年は第1歩として、4つイベントを行う予定になっている。外部の人を頼むというのはそのうち1本だけだが、2月に予定している図書館のイベントでも外部の方で、朗読会を予定している。

#### 議題④ その他

(特になし)

#### 5. 閉会